寺子屋小山台最終講話（2019年3月）

楕円の発想―最悪に備え、最善に挑む

―Prepare for the Worst, and Challenge for the Best―

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2019年3月2日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　福川　伸次

　私は、皆様の卒塾に当たり、標記の言葉を送りたいと思います。我々は、平成最後の年を迎えましたが、世界情勢は極めて不透明です。米国の安全保障政策は内向き傾向を強めていますし、通商経済政策も国内利益優先に向かっています。欧州も難民問題、Brexit、ロシアとの対立、それに南欧経済の不況に苦悩しています。中国は米国との貿易戦争に苦悩していますし、中東地域では民族的、宗教的な対立が続いています。

　経済面では、通貨、株式などの市場は不安定の動きを続けそうですし、保護主義の傾向が世界に広がっています。他方、情報通信革命は、経済システムを根本から変革する力を持っています。「規模の利益」は「範囲の利益」、「知識の利益」、「情報の利益」にとってかわられるでしょう。

　今後、皆さんは、政治面、経済面、社会面などで予想困難な事態に遭遇するに違いありません。そうなると、中心が二つある「楕円」の発想が必要になるのです。楕円は二つの中心から等距離にある軌跡を示すものです。「最悪に備え、最善に挑む」という成長と危機を視野に入れた対応を考えて下さい。